



春章画
繪本成武貴山

全



子 4
952



晉しんくして勇ゆう猛まう威い赫かく云い冊ふ子しも
 不すのの惡あく多たとと出で繪え本ほん威い武ぶ貴き山さんと
 題だいくして児こ童どう小せうしし半はんららああんんててん
 此こ恭こう平へいく遊あそ戲び武ぶ息い々ぜん廣くわう大たいなる
 幸さいしし不ふ可か患わづらここととしし志し
 米まい花はなとと其そのおおルル子こととちち成なりてて

書しよととみみくくととくくととくくととくくととくくとと

江湖漫郎妍為述





去ら 舟 舟
 すみて 人 民 と
 怪 けい
 神 夏 磯 媛
 の 大 於 一 人
 行 向 て 船 舟
 退 治 して
 敵 感 了
 あが けり ちる こと



景 行 天 皇
 無 禮 と
 追 討 の
 統 紫
 乃 幸 ちる
 前 の 国 比
 寔 子
 大 き
 けり



源為朝
島渡り
のついで
世乃知る
ところ
あまの
家平
なる
こと



鎮西
八郎為朝



牛若丸



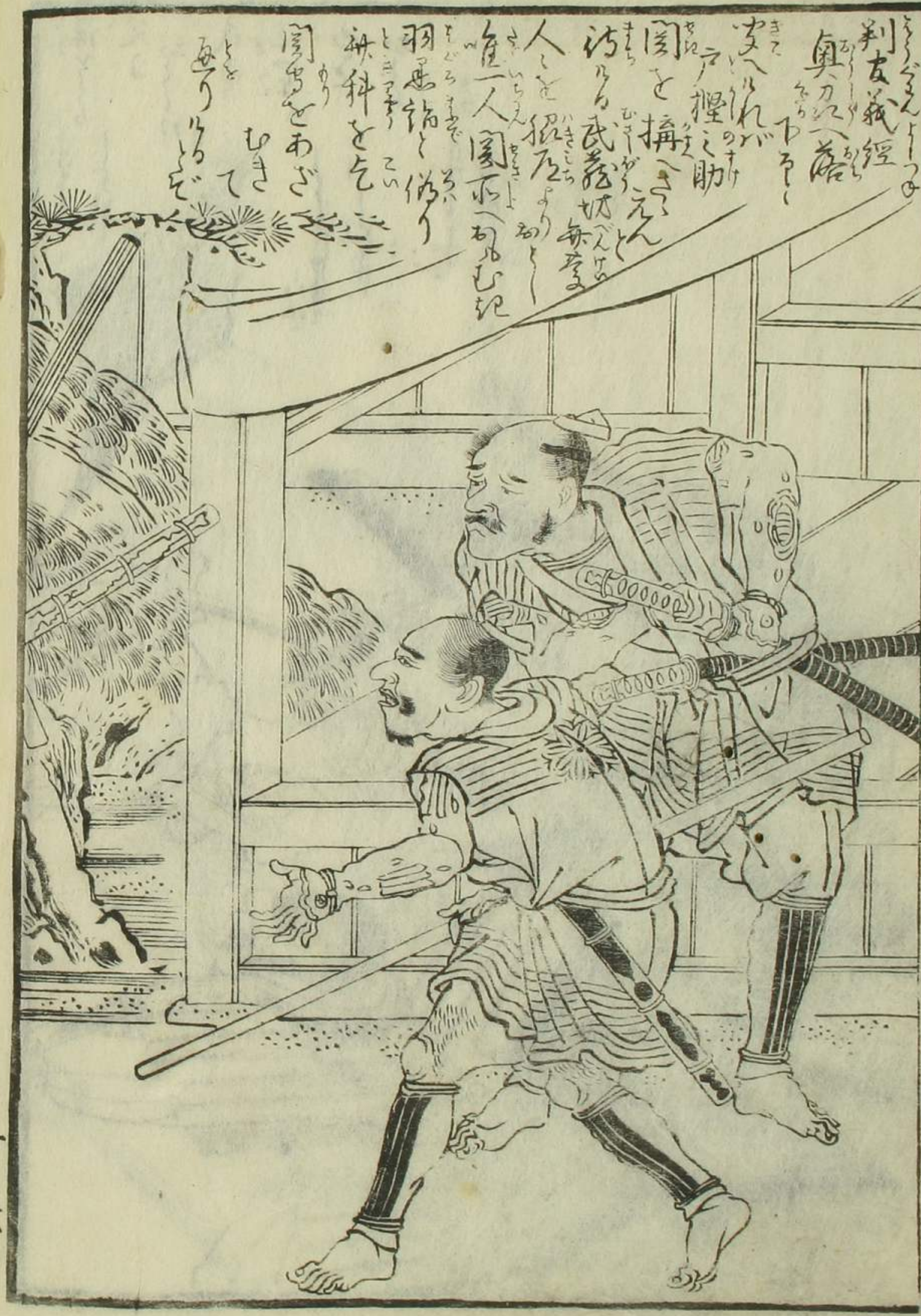
源義經
清水寺
舟渡
出合
終小
義經
妻

西行法師
武若坊舟渡





武彦坊弁左



判官我經
 眞刀落
 戸握之助
 園と梅
 訪る武彦坊
 人ひと振
 唯一人園
 羽彦坊
 秋科と乞
 園をわご
 毎うりて



西の
 月
 後代
 の
 名
 長
 久
 寺
 あり



建武
 元年乃
 秋大内
 紫宸殿
 の
 京化
 多
 射
 一丈六尺あり
 大内
 射
 一丈六尺あり
 大内
 射



のけ入り
 五良丸し
 者ふ
 徳と先んず
 大智落合
 流よ生捕ま
 今比馬ハ
 曾我勘助記
 おるし記ふ
 富よ写寸



曾我五郎
 藤原
 時致ハ
 亡父の執
 二藤左衛門
 祐經と
 又敵と
 遊て
 杉野
 本陣よ

上ノ



きのけらのすくも
紀武内宿禰
三百十六歳



こまびんこのさくら
児葛後後三郎高徳



今比圖ハ

勲切記

未巻の

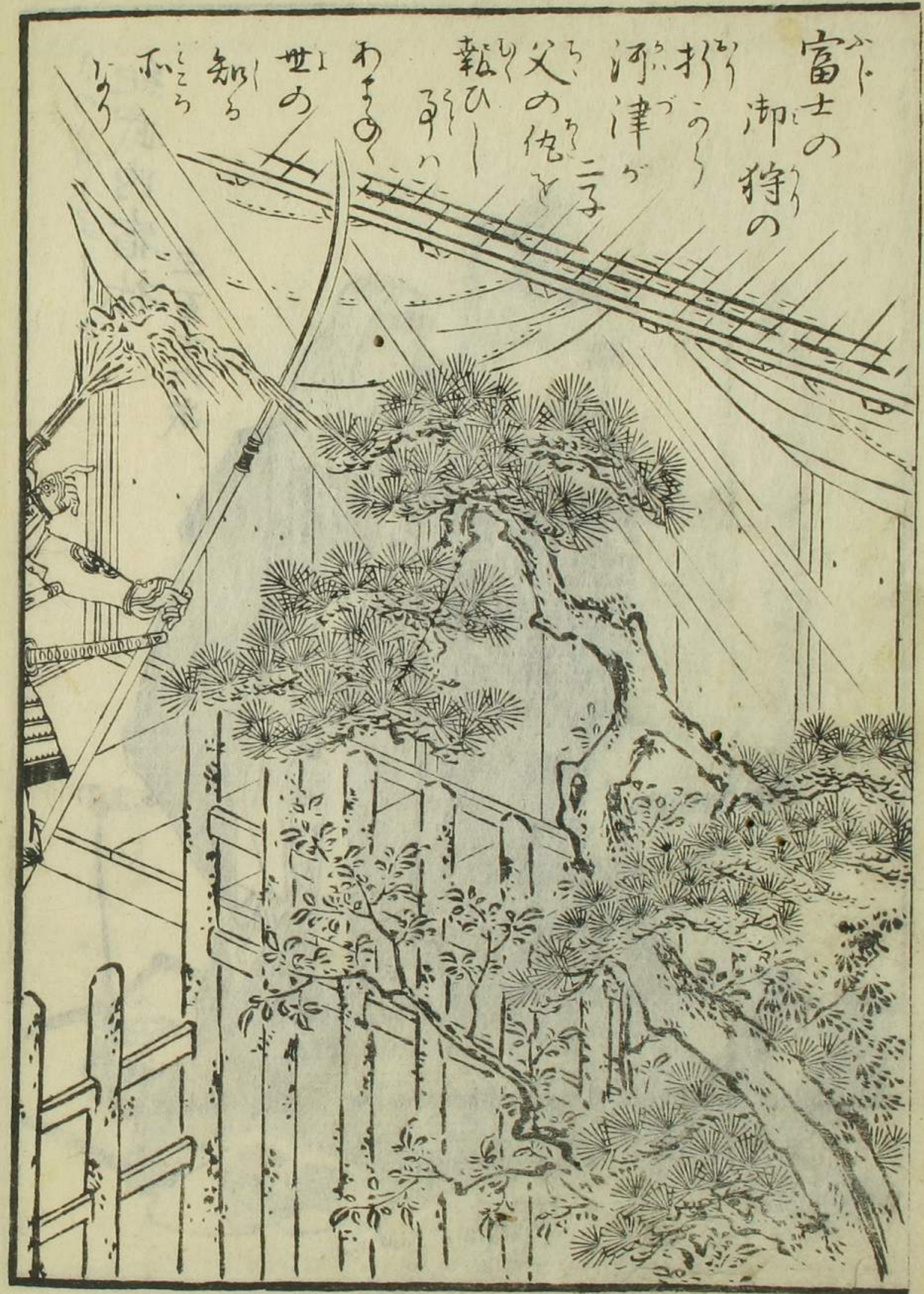
おれむき

写し

本田次郎近経

五市時致

寫我十郎
祐成



富士の
御狩の

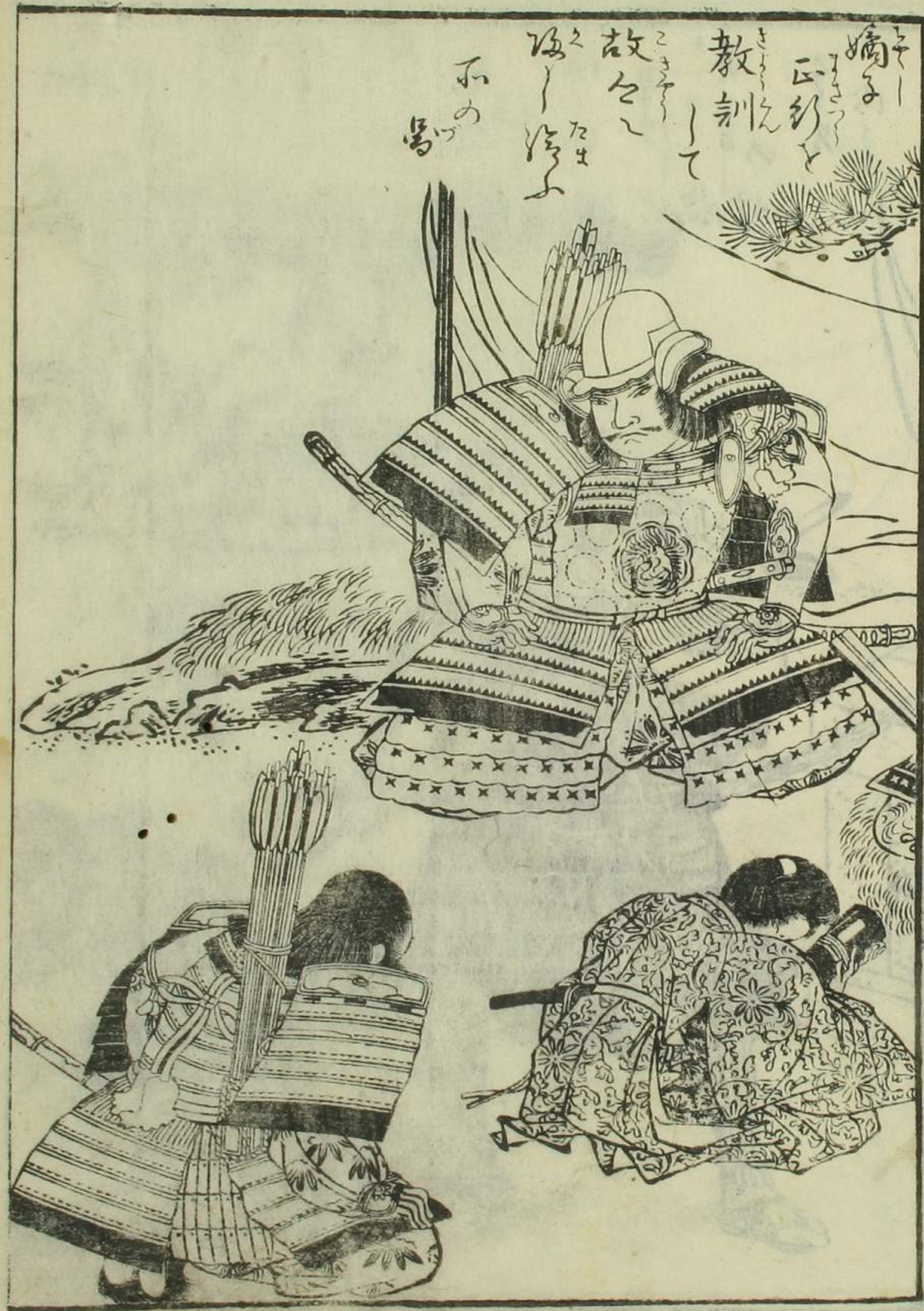
折津ケ

父の佐子

わもの

世の

知ら







下冊の田の巨人
 足原の資高
 西海よその姿を
 頼百果れ今
 関東の
 其名と傳ふ

那須與市資高



村上義光
四郎

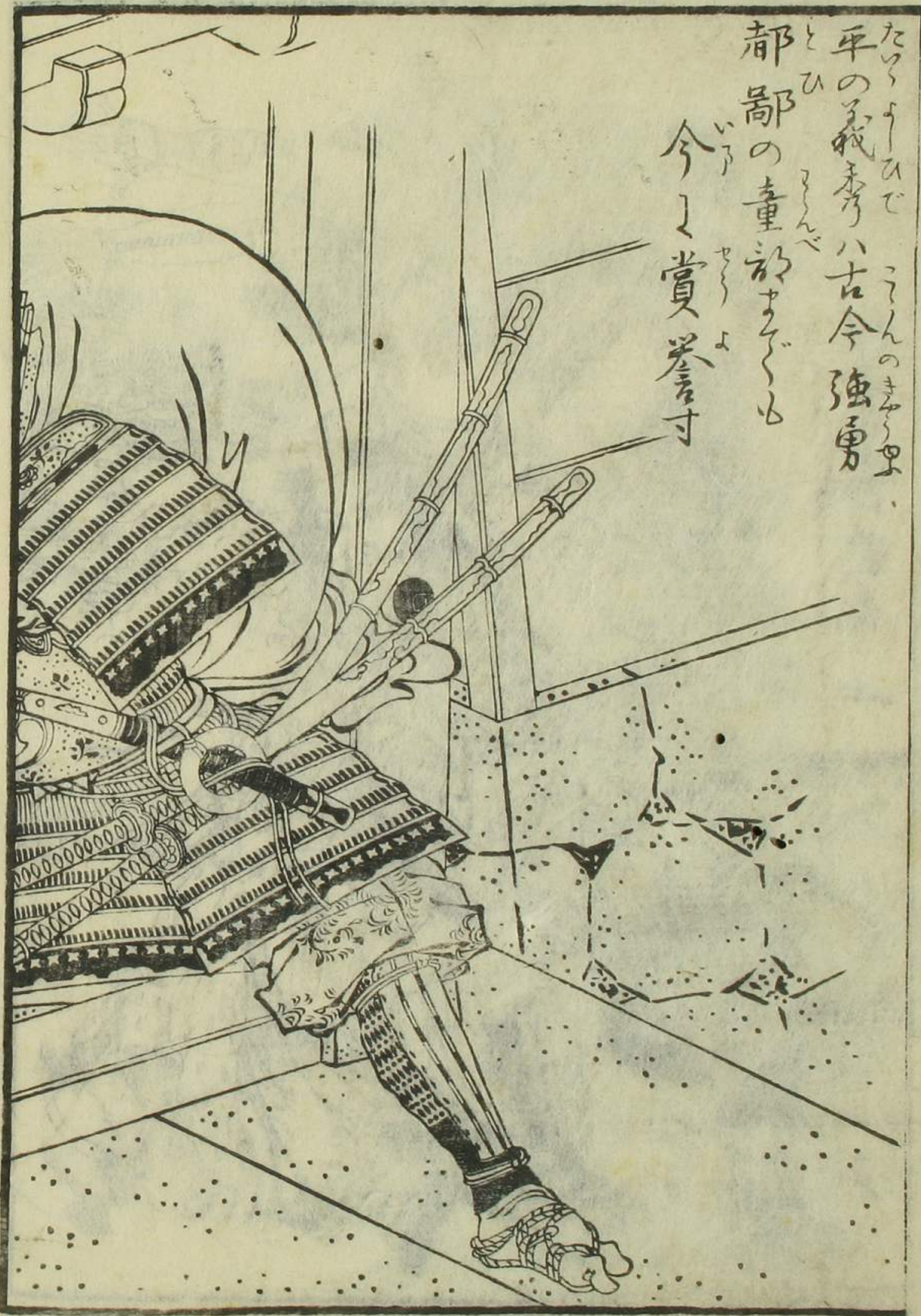


村上義光ハ
大塔の宮態
那ノ落
九人の一人
史中
勇猛
の
士

芋瀬庄司



朝比奈三郎平義季乃



平の義季ハ古今強勇
 都鄙の童初サキヨ
 今賞譽寸



忠常が富士の
 人穴へ入る
 鎌倉日記
 見し
 誠奇吳の
 事ども
 せり

仁田四郎忠常



天下第一
 本間孫四郎
 進巻す
 出雲の玉姫を別な言ひ
 後醍醐帝此御宇小
 名天をハ
 のせり
 い
 わ

本間孫四郎

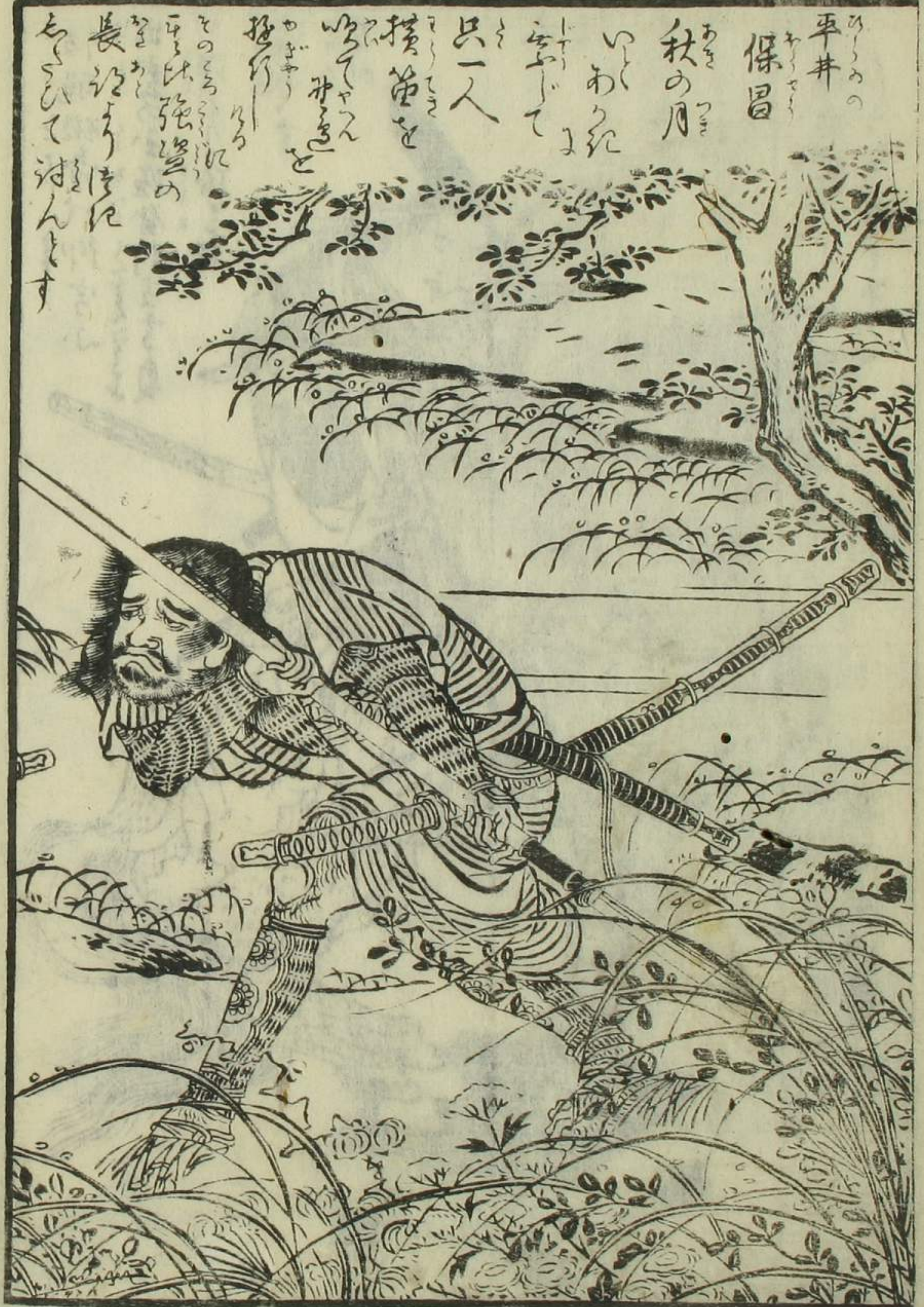


源義家
 名天をハ
 のせり
 い
 わ

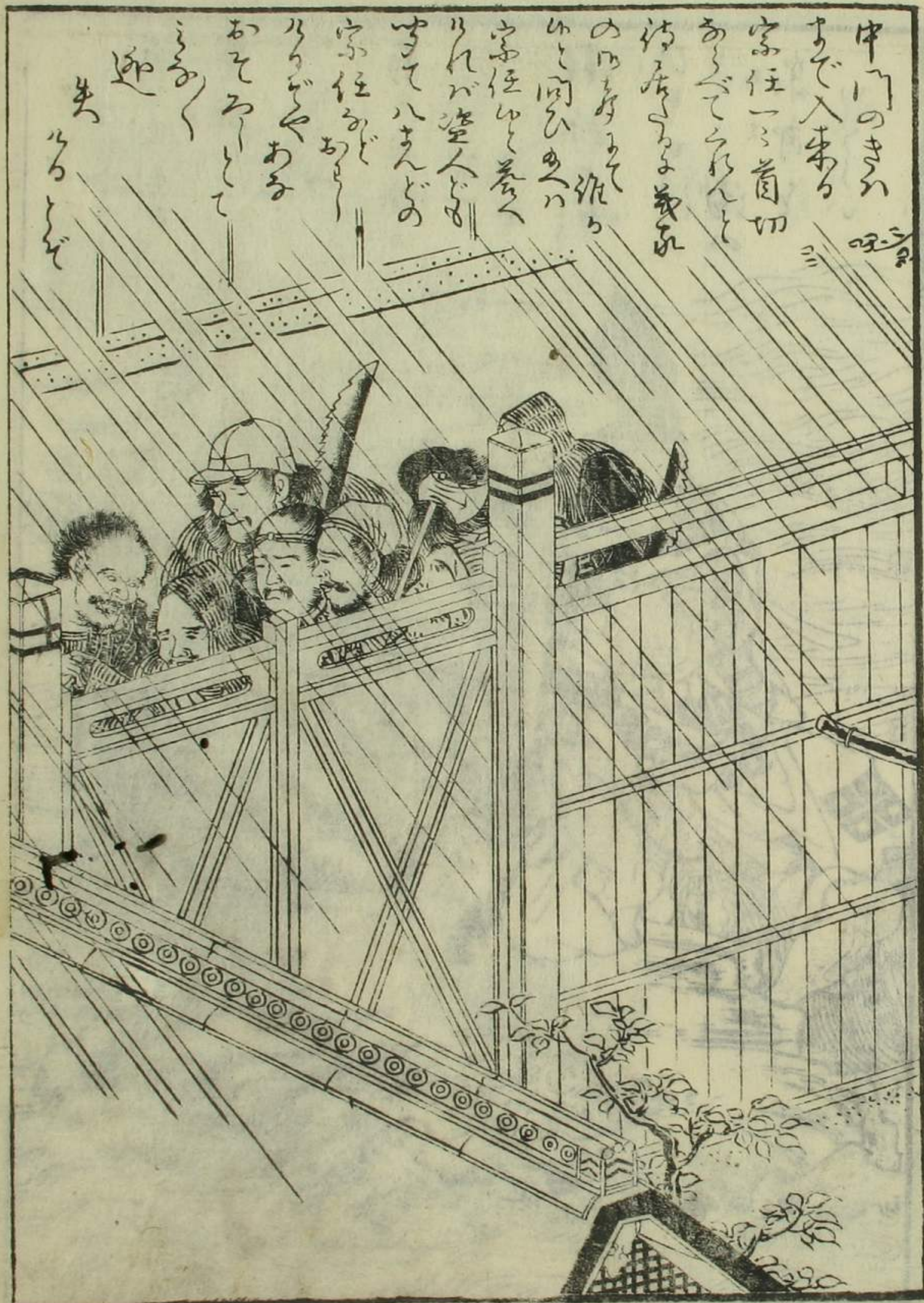
中九



保昌ヤシキの初はつの夜よにふけ
 るにいとくを吹ふき
 やまがしめてさるさるるるるる
 おくして遊あそぶ人ひとの近ちか



平井ひらいの
 保昌ヤシキ
 秋あきの月つき
 いあつた
 針はりをして
 只ただ一人ひとり
 横よこ笛ふえを
 吹ふいて
 長なが治ちよりけり
 七ななついていてつれんとす



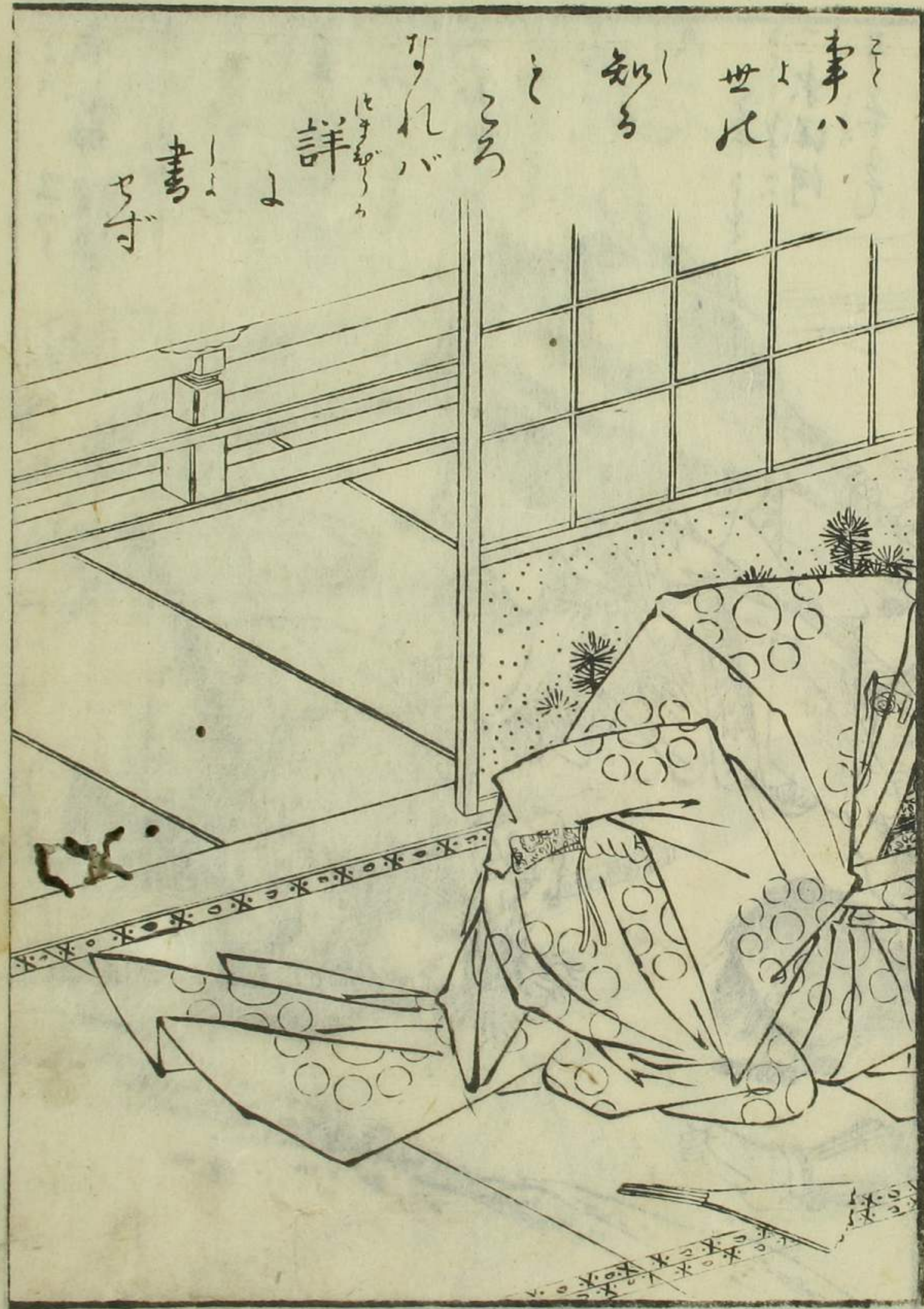
中門のまゝ
 まで入来り
 宗任一々首切
 あらびてくれんと
 侍居りし義家
 の内より
 けし同いもの
 宗任ゆく養へ
 りれば盗人ども
 守て八まんどの
 宗任おど
 りうらぐ
 おそりして
 迎
 失
 くらとぞ



八幡を祈義家女の汗(きび)て身
 冷やとちりり供よ女おの宗任
 一人おれよりすくおあうられが
 り矢操さえ
 空極負ひて
 よのわーさるる
 頼よあうり
 お月あうり
 おあうり
 電光石火
 お冷どり
 おあうり
 盗人ども
 三十人解

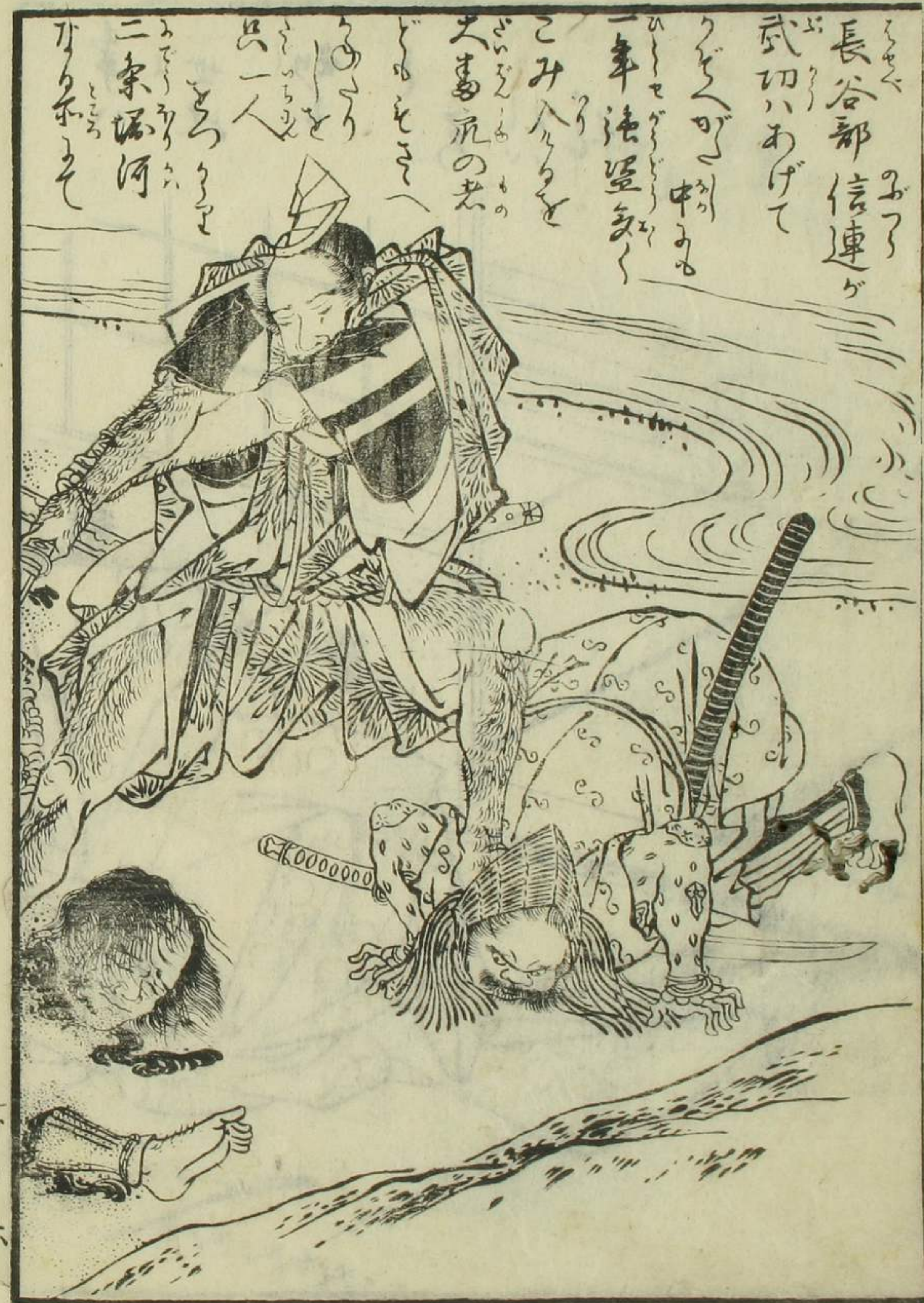
安部宗任







四人と切伏
 二人と
 生捕
 其時の
 賞よ
 兵衛の
 尉よ
 あれ
 平政地
 えい
 とう



長谷部信連
 武切あけて
 一年法監
 こみん
 大馬鹿の老
 只一人
 二条堀河
 なる

東都畫工

旭朗井勝春章



繪本多武峯

全部 三冊

東都 北尾重政圖

同 千々武山

全部 三冊

同 園

此て童子此教との收ふ所
よはてしてこゝろすの各武勇
乃画者よりしるべきありと面白
きやに正統を記し北尾重政
軒先生ふえて梓よ名存と云

寛政五癸丑歳正月吉祥日

本石町三丁目十軒店

武陽書林

山寄金兵衛

大阪書舗

心齋橋南久宝寺町

河内屋八兵衛

下九了

崇高堂藏板目錄

大坂心齋橋筋南久寶寺町

河内屋八兵衛

算法統宗大成

明程汝思輯 算術の根元と 五冊

東行筆記

常生著 仙史の記述を以て 一冊

和漢算法大成

八代算一より算術 秘奥の事以て 官城清行著七冊

東海道巡覽記

乃の記述を以て 名取四代并社 一冊

古物物語

藤原為業作 中世 名物の事以て 和 子孫の事以て 古之なり 一冊

本曾路巡覽記

東海道の事 一冊

古今著聞集

橘孝茂著 面白き事案を 二冊

善光寺巡覽記

善光寺の事 一冊

雅遊醉狂集

正親町公通公孫 面白き事案を 四冊

西園筋道中記

大坂の道中記 一冊

繪本義経記

北尾重政画 義経の事と 五冊

同海上船路記

船路の事 一冊

繪本いりけ秋

鈴木春信筆 子孫の事と 三冊

汐時計

汐の事 一冊

寒景齋畫譜

周縁の事と 五冊

戲場心篇

細脈先生作 戲場の事 一冊

東溪畫譜

沈南蘋流の画 二冊

類字倭名遣

林春齋先生著 倭名遣の事 一冊

武將感狀記

熊沢先生著
古より武功の
そのくは、神能を

十冊 大上感應編

左の條より、色ハ、五
の、手、を、法、人、よ、五
の、通、を、法、人、よ、五

一冊

北條五代記

北條五代のい
実録に和が、り、り

十冊 感應編俗解

神、か、る、ま、ま、ま、ま、ま
い、ん、の、ま、ま、ま、ま、ま

一冊

楠公櫻井書

心成、云、子、正、仍、三
ふ、り、り、り、り、り、り

一冊 備前孝子傳

ゆ、あ、れ、ま、ま、ま、ま、ま
人、の、ま、ま、ま、ま、ま

一冊

國學忘貝

和、字、比、要、言、教、文
を、こ、こ、こ、こ、こ、こ

三冊 大寶用文章

半、札、子、分、目、用、此
を、宝、用、あ、つ、む

一冊

南嶺子

佳、秋、齋、著
右、論、出、文、法、難、後、と、て
和、字、に、並、ぶ、る、事、例、は、つ、む

四冊 庭訓七寶往來

七、宝、の、形、板、字、を
と、り、ま、ま、ま、ま、ま

一冊

南嶺遺稿

自、著、の、此、後、編、なり

四冊 童學往來

七、宝、の、形、板、字、を
と、り、ま、ま、ま、ま、ま

一冊

神明憑談

和、字、神、通、の、言、を
全、明、と、す

二冊 立身始末鑑

け、ん、や、ま、ま、ま、ま、ま
を、ま、ま、ま、ま、ま

一冊

中臣後談解

神、秘、口、傳、本、を、
か、み、ま、ま、ま、ま、ま

二冊 見外白うるり

奇、怪、の、ま、ま、ま、ま、ま
い、ま、ま、ま、ま、ま

一冊

三才諸神本記

寺、島、良、女、著
外、代、の、け、い、易、を、
乃、い、ま、ま、ま、ま、ま

五冊 當世くろくろり

高、世、の、実、情、を、
辨、別、す、一、に、ま、ま

一冊

和漢太平廣記

和、漢、の、事、を、
詳、述、し、て、和、漢、
の、事、を、ま、ま、ま

五冊 唐詩朗詠集

唐、詩、の、朗、詠、を、
の、ま、ま、ま、ま、ま

一冊

